



2024年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年3月14日

上場会社名 プレミアアンチエイジング株式会社
コード番号 4934 URL <https://www.p-antiaging.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松浦 清
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 上原 祐香
コーポレートコミュニケーション本部長
TEL 03-3502-2020
四半期報告書提出予定日 2024年3月14日
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

上場取引所 東

配当支払開始予定日 -

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第2四半期の連結業績（2023年8月1日～2024年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第2四半期	10,649	△25.3	△205	-	△199	-	△1,685	-
2023年7月期第2四半期	14,258	△20.6	109	△95.1	95	△95.9	△26	-

(注) 包括利益 2024年7月期第2四半期 △1,686百万円 (-%) 2023年7月期第2四半期 △38百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純損失	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第2四半期	△193.25	-
2023年7月期第2四半期	△2.98	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第2四半期	10,625	5,923	55.7
2023年7月期	12,135	7,609	62.7

(参考) 自己資本 2024年7月期第2四半期 5,923百万円 2023年7月期 7,609百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年7月期	-	0.00	-	-	-
2024年7月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年7月期の連結業績予想（2023年8月1日～2024年7月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△24.2	△1,000	—	△1,000	—	△2,500	—	△286.68

（注）直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年7月期2Q	8,720,534株	2023年7月期	8,720,534株
② 期末自己株式数	2024年7月期2Q	155株	2023年7月期	155株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年7月期2Q	8,720,379株	2023年7月期2Q	8,720,379株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P3「1.当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（金額の表示単位の変更について）

当社の連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、当連結会計年度より百万円単位で記載することに変更しております。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位に変更して記載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、経済社会活動の正常化が進み、一部に足踏みもみられるものの、緩やかな景気回復が続きました。景気の回復を背景に個人消費にも持ち直しの動きがみられましたが、物価の上昇により消費者マインドは停滞する状況がみられました。国内化粧品市場においては、外出機会の増加により個人消費が回復し、円安によるインバウンド需要の増加もみられました。

こうした状況の下、当社グループは、中期経営計画「2024-2027 +Beyond」の初年度の目標である、構造的な改革の推進と再成長への基盤整備に取り組んでいます。

当第2四半期連結累計期間における売上高は、新たに加わった子会社のベネクスを通じて行っているリカバリー事業の売上が伸長したものの、当社で行っているアンチエイジング事業の売上が減収となり、全体では10,649百万円（前年同期比25.3%減）となりました。営業損益は、リカバリー事業の利益の伸長や、通販市場での広告コストの高止まりによる新規獲得に係る広告宣伝費の抑制等があったものの、減収により売上総利益が減少したことから、205百万円の営業損失（前年同期は営業利益109百万円）、経常損失は199百万円（前年同期は経常利益95百万円）となりました。

なお、事業環境の悪化及び今後の見通しの不確実性を勘案し、新たな販売系システムの開発を中止したことから、当第2四半期連結累計期間において、ソフトウェア仮勘定に係る減損損失及び契約損失並びに契約損失引当金繰入額を特別損失として計上しました。また、将来の業績動向等を踏まえ、当社の繰延税金資産の回収可能性を見直した結果、繰延税金資産517百万円を取り崩して同額を法人税等調整額に計上しました。なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。この結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は1,685百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失26百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

アンチエイジング事業

（単位：百万円）

	2023年7月期 第2四半期連結累計期間	2024年7月期 第2四半期連結累計期間	前年同期比 （%）
売上高	14,258	9,750	△31.6
営業利益又は営業損失（△）	109	△360	—

売上高

アンチエイジング事業の売上高は、9,750百万円（前年同期比31.6%減）となりました。

「デュオ」ブランドは、クレンジング売上No.1の地位に変わりはないものの、市場全体でバーム剤型からオイル剤型へのシフトが継続するとともに、低価格バーム商品との競争が激化していることから苦戦が続いています。このような状況を打開するため、新たなテレビCMや美容家・インフルエンサーによるイベント、SNS等を通じて、ブランド価値、商品価値の理解を促進するコミュニケーションを強化してまいりました。しかしながら、当第2四半期連結累計期間においては、施策の効果はまだ十分に発揮されておらず、減少のペースは緩やかになってきているものの、売上高は通信販売・卸売販売ともに減少しました。

「カナデル」ブランドは、新たなテレビCMを放映してブランド認知の向上を図るとともに、CMと連動した店頭でのキャンペーンを展開し、新規及び既存顧客へのアプローチを強化した結果、前四半期比では売上を伸ばしました。しかしながら、オールインワン市場の厳しい競争環境が続くとともに、広告コストの高止まりから新規獲得が計画を下回り、売上高は前年同期実績を下回っています。

「クレイエンス」ブランドは、テレビCMと連動したマーケティング施策が寄与し、カラートリートメントを中心に計画通りの販売が続いています。昨年度投入した、しっかり染まる医薬部外品の泡状白髪カラー「クレイスパイクカラー」も、テストマーケティングで販売を伸ばしています。この結果、売上高は前年同期を下回ったものの、足許では増収傾向が続いています。

この他、育成ブランドとして昨年度新たに投入したインナーケア事業のサプリメント「シントー」や高濃度ビタミンCブランド「C+mania（シーマニア）」等が、テストマーケティングで好調に推移していますが、主力ブランドの売上の減少を補うには至っていません。

営業損益

損益面では、通販市場での広告コストの高止まりにより新規獲得の広告宣伝費等が抑制されたものの、減収により売上総利益が減少したことから、営業損失は360百万円（前年同期は営業利益109百万円）となりました。

リカバリー事業

（単位：百万円）

	2023年7月期 第2四半期連結累計期間	2024年7月期 第2四半期連結累計期間	前年同期比 （%）
売上高	—	899	—
営業利益	—	151	—

売上高

売上高は、サプライチェーン・マネジメントを強化し、増産体制を構築、新たな販売チャネルの開拓においてもグループシナジーが発揮されたことから、過去最高収益を達成し899百万円となりました。

営業利益

売上高の伸長に伴い営業利益も過去最高を更新し151百万円となりました。

（注）リカバリー事業の前第2四半期連結累計期間の売上高及び営業利益は、リカバリー事業が前連結会計年度の第3四半期連結会計期間より開始したことから、開示を行っておりません。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して1,509百万円減少し、10,625百万円となりました。主な増減要因は、次のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して861百万円減少し、8,368百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少725百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して648百万円減少し、2,256百万円となりました。これは主に、有形固定資産の増加570百万円、無形固定資産「その他」に含まれるソフトウェア仮勘定の減少453百万円及び投資その他の資産に含まれる繰延税金資産の減少517百万円によるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して176百万円増加し、4,702百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して、298百万円増加し、3,315百万円となりました。これは主に、1年内返済予定長期借入金の増加158百万円、短期借入金の増加69百万円及び契約損失引当金の増加81百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して、122百万円減少し、1,386百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少243百万円によるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して1,686百万円減少し、5,923百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失1,685百万円によるものであります。

その結果、自己資本比率は55.7%となりました。

（3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、3,938百万円（前連結会計年度末比720百万円減）となりました。

また、当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において営業活動により獲得した資金は、38百万円（前年同期は773百万円の獲得）となりました。収入の主な内訳は、売上債権の増加193百万円、棚卸資産の減少236百万円、契約損失引当金の増加250百万円、減損損失492百万円、支出の主な内訳は、税引前四半期純損失1,108百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、745百万円（前年同期は436百万円の使用）となりました。支出の主な内訳は、有形固定資産の取得による支出599百万円、無形固定資産の取得による支出151百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間において財務活動により使用した資金は、29百万円（前年同期は1,094百万円の獲得）となりました。収入の内訳は、短期借入金の純増額69百万円、支出の主な内訳は、長期借入金の返済による支出85百万円であります。

（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年7月期の連結業績予想につきましては、当社グループの主要販売商品である化粧品の競争環境や当第2四半期連結累計期間における業績の進捗状況等を勘案し、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては本日（2024年3月14日）に別途公表いたしました「2024年7月期第2四半期連結業績予想と実績値の差異、特別損失（減損損失等）の計上及び繰延税金資産の取り崩し並びに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,670	3,944
売掛金	2,080	1,887
製品	1,464	1,162
原材料及び貯蔵品	444	511
その他	568	863
流動資産合計	9,229	8,368
固定資産		
有形固定資産	77	647
無形固定資産		
のれん	394	373
その他	1,117	701
無形固定資産合計	1,511	1,075
投資その他の資産	1,316	533
固定資産合計	2,905	2,256
資産合計	12,135	10,625
負債の部		
流動負債		
買掛金	258	246
短期借入金	568	637
1年内返済予定の長期借入金	230	388
1年内償還予定の社債	26	26
未払金	1,171	1,060
未払法人税等	22	85
賞与引当金	53	64
契約損失引当金	—	81
その他	685	724
流動負債合計	3,016	3,315
固定負債		
社債	70	57
長期借入金	1,366	1,122
契約損失引当金	—	168
資産除去債務	38	6
その他	34	30
固定負債合計	1,509	1,386
負債合計	4,525	4,702
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,351	1,351
資本剰余金	1,351	1,351
利益剰余金	4,888	3,203
自己株式	△1	△1
株主資本合計	7,590	5,904
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	19	18
その他の包括利益累計額合計	19	18
純資産合計	7,609	5,923
負債純資産合計	12,135	10,625

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
売上高	14,258	10,649
売上原価	3,090	2,160
売上総利益	11,168	8,489
販売費及び一般管理費	11,059	8,694
営業利益又は営業損失(△)	109	△205
営業外収益		
受取利息	0	0
為替差益	—	19
雑収入	6	2
営業外収益合計	7	22
営業外費用		
支払利息	6	11
為替差損	13	—
雑損失	0	4
営業外費用合計	20	15
経常利益又は経常損失(△)	95	△199
特別損失		
減損損失	—	492
契約損失	—	147
契約損失引当金繰入額	—	250
その他	—	18
特別損失合計	—	908
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	95	△1,108
法人税等	121	577
四半期純損失(△)	△26	△1,685
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△26	△1,685

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
四半期純損失(△)	△26	△1,685
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△12	△0
その他の包括利益合計	△12	△0
四半期包括利益	△38	△1,686
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△38	△1,686

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	95	△1,108
減価償却費	79	82
のれん償却額	-	20
固定資産除却損	-	16
減損損失	-	492
関係会社株式評価損	-	2
貸倒引当金の増減額(△は減少)	-	1
契約損失引当金の増減額(△は減少)	-	250
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	6	11
売上債権の増減額(△は増加)	844	193
棚卸資産の増減額(△は増加)	442	236
仕入債務の増減額(△は減少)	△32	△12
未払金の増減額(△は減少)	△437	△87
未払費用の増減額(△は減少)	△36	128
前払費用の増減額(△は増加)	△164	23
その他	127	△277
小計	923	△27
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△7	△10
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△143	75
営業活動によるキャッシュ・フロー	773	38
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△0	4
有形固定資産の取得による支出	△32	△599
無形固定資産の取得による支出	△278	△151
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△124	-
貸付金の回収による収入	-	1
敷金の差入による支出	△0	-
保証金の差入による支出	-	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△436	△745
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	758	69
長期借入れによる収入	500	-
長期借入金の返済による支出	△163	△85
社債の償還による支出	-	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,094	△29
現金及び現金同等物に係る換算差額	△14	15
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,416	△720
現金及び現金同等物の期首残高	2,963	4,659
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,379	3,938

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

当第2四半期連結会計期間において、当社を存続会社、当社の完全子会社であったプレミア・ウェルネスサイエンス株式会社を消滅会社とする吸収合併を行ったため、プレミア・ウェルネスサイエンス株式会社を連結の範囲から除外しております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものを一定の基準に従い集約したものとしています。

当社は、業績の評価等を主として連結子会社別に行っているため、これを事業セグメントの識別単位とし、このうち各事業セグメントの経済的特徴、製品及びサービスを販売する市場又は顧客の種類等において類似性が認められるものについて集約を実施し、報告セグメントを決定しています。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

各セグメントで扱っている主な製品、サービスは以下のとおりです。

・アンチエイジング事業

主にスキンケア、ヘアケア、インナーケア製品の製造・販売を行い、DUO、カナデル、クレイエンスといったブランドが含まれております。

・リカバリー事業

主に株式会社ベネクスを通じたリカバリーウェア等の製造・販売を行っています。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年8月1日 至 2023年1月31日）

当社グループはアンチエイジング事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2023年8月1日 至 2024年1月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アンチ エイジング事業	リカバリー事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,750	899	10,649	—	10,649
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	9,750	899	10,649	—	10,649
セグメント利益又は損失 (△)	△360	151	△209	3	△205

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額3百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントの変更等

従来、当社グループの報告セグメントは「化粧品の製造・販売事業」のみであり、その他の事業セグメントの重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、当社グループにおける「リカバリー事業」の重要性が増したためセグメント情報を開示しております。

また、第1四半期連結会計期間より、従来「化粧品の製造・販売事業」としていた報告セグメントの名称を、「アンチエイジング事業」へ変更しています。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報を当第2四半期連結累計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、「リカバリー事業」が前連結会計年度の第3四半期連結会計期間より開始したことから、開示を行っておりません。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アンチエイジング事業」セグメントにおいて、一部のソフトウェア仮勘定の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は492百万円です。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。